

平成28年度第2回公衆浴場問題協議会議事録

1 開催日時 平成28年7月29日(金) 10:30~11:30

2 開催場所 道庁本庁舎6階保健福祉部1号会議室
札幌市中央区北3条西6丁目

3 出席者

(1) 委員・・・10名 福永会長、今村副会長、久保委員、馬込委員、
金本委員、坪田委員、小西委員、安達委員、
石田委員、山内委員

※欠席委員：堀江委員、村井委員、吉澤委員

(2) 傍聴者・・・1名 佐藤氏(北海道公衆浴場業生活衛生同業組合)

(3) 報道関係者・・・2名 毎日新聞社1名、北海道新聞社1名

4 内容

(1) 開会等

(2) 報告事項

ア 平成28年度北海道公衆浴場経営実態調査結果について

(笹川獣医師)

資料1~4について報告

(福永会長)

只今の報告につきまして、ご質問、ご意見ありましたら、お出しただければと思います。

(委員一同)

質問、意見等なし。

(3) 協議事項等

ア 公衆浴場入浴料金の取扱いについて

(福永会長)

公衆浴場料金を今後、上げるかどうかを決めるための入浴料金審議会の開催を必要とするかの判断をいたしたいと思っておりますが、何かご意見ございますでしょうか。

(小西委員)

毎年のことですが、今年も実態調査を5月6月の忙しい時期にやっていたことを感謝申し上げます。結果からというか、業界側からの意見を聞いていただきたいのですが、入浴客数の調の87.9人は昨年から見ると、実は0.1人増えているという状況です。前回の審議会見込額からすると、収入も減になっており、諸経費等も若干増えたり、減ったりという中のバランスにあります。経営的には、例えば、人件費のところで従業員費が減っているというのは従業員数を減らしているとかの結果であり、光熱費が増えているところとお互い努力した結果の姿かなと思います。ただ、経営内容としては燃料費が非常に下がってきているということがこの数字に出ていますように、3万1千円ほど減っていますので、苦しい中でもそういうところで凌いでいる、又は燃料を重油から他の燃料に切り替えながらということで、業界としては努力しているつもりであります。

今回の収支差がマイナス1万4千円という結果につきましては、業界の中でなんとか努力をすれば、毎年累積となってきますが、吸収できる数字かなという風に、今この数字を見ながら感じているところであります。

例年ですと、収支差がマイナス3万円となりますと、入浴料金審議会へ移行するところでありますけれども、今回のこの数字を見まして、今回は審議会への移行を業界としては要望しないで、なんとか努力をしていきたいという風に考えているところであります。

(福永会長)

ありがとうございます。他にご意見ありますでしょうか。

(委員一同)

意見なし。

(福永会長)

それでは、ただいまの小西委員のご意見を踏まえまして、また、小西委員のご発言にもありましたように、例年経営実態調査の収支差が3万円を超えた場合は、審議会の方に移行するというところでありますけれども、今回は3万円を超えておりませんので、今年度当協議会としましては、入浴料金審議会の開催の必要はなしと判断したいと思いますですがよろしいでしょうか。

(委員一同)

意義なし。

(福永会長)

それでは、そのようにいたしたいと思います。

イ その他

(福永会長)

それでは、他に協議事項がありましたら、お話いただきたいと思いますが、何かございますでしょうか。

(山内委員)

他府県の入浴料金の状況を見ておりますけれども、北海道はやはり冬場があったら、どうしても電気等の経費がかさむかと思えます。一方で、関東の方では石油の関係か何かの経費が高いと感じられるのですが、実際の経費は各都府県で行っている実態調査の内訳、額だけでも構いませんが、当然差があるかと思ので、そういった値を示していただければ、決してこれについては高いという話にはならないか気がいたします。そういったものを含め、道内だけのものでなく、道外のものを含めて検討していけばよいのではないかと思いますので、一応、意見として申し上げます。

(福永会長)

ご意見ありがとうございます。

それでは、もしできましたら、そういった情報を来年度以降にでも、提供していただければと思います。

他はよろしいでしょうか。

(委員一同)

なし。

(4) 閉会

(福永会長)

予定していました協議も終了いたしましたので、これで第2回公衆浴場問題協議会を閉会いたしたいと思います。

委員の皆様には御協力いただきまして感謝を申し上げます。